

サルファーフリー自動車燃料油の供給体制を確立 2005年1月1日からサルファーフリー自動車燃料油を全国供給開始

記者各位

当社(社長:渡 文明)は、2005年1月1日からのサルファーフリー自動車燃料油の全国供給開始に向けて設備対応などを進めてまいりましたが、この度、根岸製油所にて「ROK-Finer/ロックファイナー」(FCCガソリン脱硫プロセス)が完成し、当社グループの7製油所にてサルファーフリー(硫黄分10ppm以下)の燃料油を供給する体制が確立したことをお知らせいたします。

自動車排気ガスの環境対策には、大気汚染の防止と地球温暖化防止の両立が求められており、それに対応して、サルファーフリー自動車燃料油による排出ガスのクリーン化と燃費の向上によるCO2吸収排出量の削減を推進してまいります。

わが国では、軽油は2007年、ガソリンは2008年からそれぞれ硫黄分を10ppm以下に抑えるよう規制される予定です。その中で、石油連盟に加盟している石油精製・元売会社は、国の規制開始を前倒して、サルファーフリーガソリン、サルファーフリー軽油ともに2005年1月より自主的に供給を開始いたします。

当社では、他社に先駆けてサルファーフリーを実現した環境ハイオク「ENEOS ヴィーゴ」を2002年4月に発売開始し、2003年11月には全国展開を達成しております。今回、当社グループの7製油所にて、サルファーフリー自動車燃料油を供給する体制を確立したことにより、2005年1月以降、順次流通在庫が置き替わり、環境ハイオク「ENEOSヴィーゴ」に引き続き、同年4月中には当社系列のSS(沖縄と一部離島を除く)にて販売されるレギュラーガソリンと軽油はすべてサルファーフリーとなる見通しです。なお、サルファーフリー化への対応に伴う設備投資額は約200億円です。

記

1. ガソリンのサルファーフリー対応について

財団法人石油産業活性化センターと共同で開発した「ROK-Finer」により、ガソリン性能指標の一つであるオクタン価を低下させずに、ガソリン中の硫黄分を除去することが可能になりました。同装置は、2004年8月からの当社仙台製油所での実証化試験を皮切りに、水島製油所、根岸製油所の計3製油所に導入しています。また、その他の製油所では水素化脱硫装置の増強で対応しております。

2. 軽油のサルファーフリー対応について

当社で開発した「軽油水素化脱硫触媒」を、当社グループの6製油所(大阪製油所を除く)で導入しています。従来の脱硫触媒に比べ、高性能であり、外販も実施しております。

以上

 「ROK-Finer」の概要 (PDF:28KB)

 「軽油水素化脱硫触媒」の概要、当社グループの製油所概要 (PDF:30KB)